

第11回

第18回
岩手
西和賀

9月10日(金)

開場/12:30

プレ上演 高齢者劇団(西和賀町)

「七人の桜井」/13:00

開会行事/18:30

黒沢尻歌舞伎保存会(北上市)

村歌舞伎「恋飛脚大和往来 二幕/新町揚屋の場・新口村の場」/19:00

9月11日(土) 開場/10:30

東京芸術座(東京都)

「12人の怒れる男たち」/11:00

劇団ぶどう座(西和賀町)

「猫の事務所ごっこ」/13:30-16:30

(会場:ぶどう座アトリエ)

劇団支木(青森市)

「往生際はにぎやかに」/18:30

しるたにまもる腹話術教室

/10:00(Uホール)

9月12日(日) 開場/10:00

劇団きづがわ(大阪市)

「三人の長い影」/10:30

合評討論会/13:30

銀河ホール地域演劇祭 全日本演劇フェスティバル



●入場料金/全日共通券 一般1,000円/小中高500円
1日券 一般700円/小中高300円

●主 催/第18回銀河ホール地域演劇祭・第11回全日本演劇フェスティバル実行委員会
●後 援/西和賀町芸術文化協会・西和賀町観光協会

この事業は岩手県文化振興基金の助成を受けて実施しています

2010年9月

10日金・11日土・12日日

第18回銀河ホール地域演劇祭 スケジュール

第11回全日本演劇フェスティバル

10日(金) 13:00

★ブレ上演 高齢者劇団 (西和賀町)

「七人の桜井」 作/金子義広 演出/中野 健



2009年「いってらっしゃい気をつけて」 だが黙認。

東北のどこかにある筈の「桜井村」。どういうわけかこの村の8割が桜井姓。ここも過疎化で、若者の姿が見当たらない。意気軒高、気力・体力の有り余っている「七人のシニア桜井」たちは毎日「桜井医院」に出かけては待合室の一部をのっとり、サークル活動と称してゲーム・花札・カラオケ、雑談などをやっている。女院長は迷惑顔

ある日、通院患者から「一人暮らしの女友達が、最近元気がないので励ましてあげたい」と相談を持ちかけられる。彼女には消息不明の一人息子がいる。その子呼び戻すことが一番の励ましとなり、シニア・ボランティア活動を開始するのだが…。

11日(土) 11:00

東京芸術座 (東京都)

「12人の怒れる男たち」

作/レジナルド・ローズ 訳/額田やえ子 演出/稲垣 純

貧民街で起きたある殺人事件。無作為に選ばれた12人の陪審員たちが6日間の審理を傍聴し評決を出すために陪審員室に入ってくる。有罪となれば死刑が確定する。評決は「5分」で済むと思われたが、一人の男が無罪に投票した。「せめて1時間話し合しましょう。」評決は全員一致でなければならない。11人の冷やかな視線が男に突き刺さる。

殺風景な裁判所の一室で、男たちの会話がギクシャクしながら進む。完璧な「事実」が意外な側面を見せる。



11日(土) 18:30

劇団支木 (青森市)

「往生際はにぎやかに」 作・演出/田辺典忠



母・光枝の容態が良くない。いよいよダメらしい。

狭い病室には、一番のお婆ちゃんっ子だった孫・真智子と、イケメンの彼氏が付き添っていた。光枝の夫・夢野新一の家では、息子の圭介夫婦らが真智子からの連絡を待っていた。一旦緩急あればかけつける手はずだ。

気の早い葬儀屋がやって来た。葬儀の段取りがとんとん拍子に進んでいく。格式の高い葬儀でなければ、娘の縁談にも差支える。そこへ圭介の妹夫婦がやって来た。兄妹夫婦のバトルがはじまった。残された父の面倒は長男がみるべきだ、いや実の娘がみた方がよい…。当の新一は蚊帳の外だ。

「父さん、あとの人生は母さんとの思い出に生きればよいじゃないか。」そんな気などさらさらしない、新一だった。家は、仏様不在ながら弔問客が来はじめ、にぎやかになって行く。やがて、家族のすべてを知る見知らぬ人物の弔問で、新一の目論見が白日の下にさらけ出されて行く。そこへ、真智子からの電話が…。

10日(金) 19:00

黒沢尻歌舞伎保存会 (北上市)

こいびきやくやまとおうらい
恋飛脚大和往来 演出/吉村雄之輔

飛脚宿屋の忠兵衛と深い仲の髓屋の傾城、梅川に身請けの話が出ます。慌てた忠兵衛は五十両の手付を工面するも、後金の算段がつかず期限が来てしまいます。その日、堂島のお屋敷に届ける金を懐に井筒屋を訪ねると、ちょうど来合わせた丹波屋八右衛門にさんざん悪口を浴びせられ、意地づくから大切な預り金の封印を切ってしまう。身請けした梅川の手を取り忠兵衛は、故郷の新口村をめざして死出の旅路を急ぐのでした…。



11日(土) 13:30・16:30 (ぶどう座アトリエ)

劇団ぶどう座 (西和賀町)

「猫の事務所ごっこ」

原作/宮澤賢治 脚色/川村光夫 演出/菊池啓二・牛崎志津子

荒野にたたずむ「猫の第六事務所」。取るに足りない、何の役に立っているのかわからない事務所である。そこに集まる猫たちが繰り広げる猫(人間)模様は、どこでもある光景である。つましく、佻しくもあるが、そこに生きて暮らす猫たちがいる。そしてある日、不協和音が…。

皆様ご存知の宮澤賢治。この人の童話に「猫の事務所」という作品があります。今回はそれを劇に仕組んで私たちが猫になったつもりでやってみようということです。さては皆様、お楽しみに…。



11日(土) 10:00 (Uホール)

しろたにまもる腹話術教室

入場無料でどなたでも参加できますのでお気軽にお越しください。

腹話術師・しろたにまもる プロフィール

1985年から腹話術を始め、2001年に日本でも数少ないプロの腹話術師としてデビュー。東京を中心に全国各地で活動を行っている。2010年5月から川崎市社会教育委員。

12日(日) 10:30

劇団きづがわ (大阪市)

二人の長い影 作/山田太一 演出/林田時夫

「久美子ちゃんか。久美子ちゃんだね。」…私は恋をしていた。17才だった!

ありふれた都会の近郊、穏やかな老後を送っている夫婦のもとに1本の電話がありドラマは始まる。そして、終戦間近のロシア国境近く、ソ連軍の参戦・終戦と共に戦火に引き裂かれた恋人同士の愛と苦難に満ちた地獄の逃避行と、その二人の58年ぶりの再会をめぐる家族を巻き込んでのドラマが同時進行する。過去と現在が交錯しながら、まさに「あの戦争体験が現代の人間ドラマ」として見事に蘇るのである。山田太一さんならではの作劇の妙味で、『二人の長い影』は、山田さんが、中村登美枝さんという方の引き揚げ体験の手記『生きて帰れよ』を下敷きに、同じ引き揚げ体験を持つ故・南風洋子さんのために書き下ろされ作品である。この度は、昨年1月と10月にきづがわが初演・再演し好評を得て、全日演フェスティバルでの上演となりました。



入場券取扱い

- 銀河ホール ●味処いろり ●サロン・ド愛 ●珈琲やまもと ●ヤマザキショップ ●巢郷いこいの家 ●丑の湯
- みなみかわ商店 ●佐井商店 ●六戸商店 ●猿橋商店 ●丸善商店 ●北村商店